

入試結果報告会 数学

松本 幸博

学力検査による入学者選抜

年度	募集人員 (男女問わず)	最終応募人員			最終 応募倍率	受検人員			受検倍率	合格人員		
		男	女	計		男	女	計		男	女	計
4	284	327	343	670	2.36	287	319	606	2.13	143	144	287
3	284	275	270	545	1.92	240	247	487	1.71	142	146	288
令2	284	271	305	576	2.03	235	289	524	1.82	131	157	288
31	284	305	301	606	2.13	264	273	537	1.89	133	155	288
30	284	353	302	655	2.31	304	280	584	2.06	146	141	287

過去17年間、受検倍率は約2倍前後で推移している
受験生全体の平均点を取ることが大事
といえる

2022年度 数学の平均49.1点

以下の問題番号に○をつけましょう

- | |
|---|
| 1 |
|---|

 問1、問2、問3、問4
- | |
|---|
| 2 |
|---|

 問1
- | |
|---|
| 3 |
|---|

 問1 ①～⑦

正解率 70%～90% の問題

合計 35点 平均約49.1点

以下の問題番号に△をつけましょう

- 1 問5、問6
- 2 問2

正解率

50%～70%

の問題 合計31点

正解率50%～90%

の合計 66点

平均約49.1点

合否を分けた問題その1

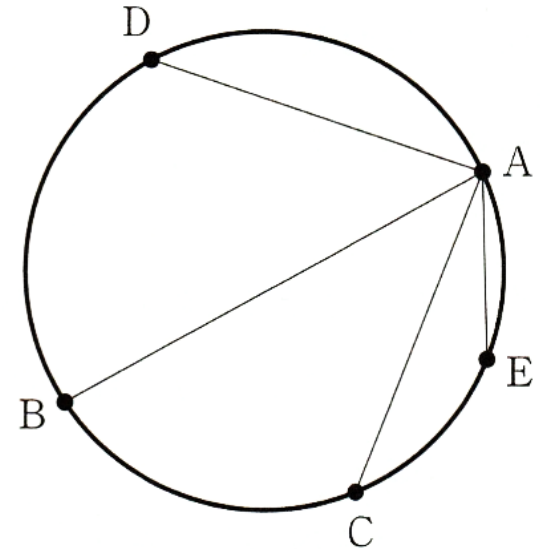
〔問5〕 右の図1で、3点A, B, Cは、1つの円周上にある点で、互いに一致しない。

点Cを含まない $\widehat{AB}$ を2等分する点をD、点Bを含まない $\widehat{AC}$ を2等分する点をEとする。

点Aと点B、点Aと点C、点Aと点D、点Aと点Eをそれぞれ結ぶ。

$\angle BAC = 40^\circ$ のとき、
 $\angle DAE$ の大きさは何度か。

図1



正しく解けなくても答えが出てしまったかもしれない
問題 ←正しく解こうとして時間がかかるかも・・・

合否を分けた問題その2

〔問6〕 右の図2で、点Cは、線分OA上にも

線分OB上にもない点である。

点Cを通り線分OAにも線分OBにも
交わる直線 ℓ を引き、線分OAとの交点
をP、線分OBとの交点をQとする。

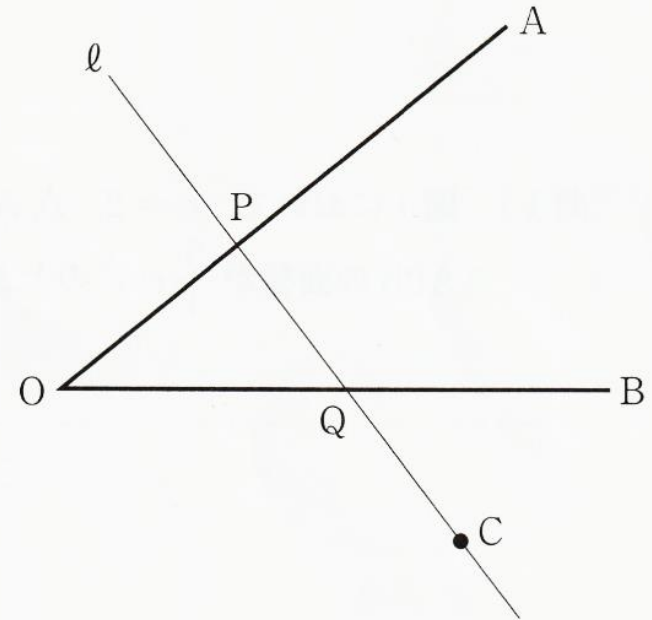
解答欄に示した図をもとにして、

$OP = OQ$ となる直線 ℓ を、定規とコンパスを
用いて作図し、直線 ℓ を示す文字 ℓ 、

点Pと点Qの位置を示す文字P、Qも書け。

ただし、作図に用いた線は消さないで
おくこと。

図2



易しい条件から少しずつ取り組めば良かった問題

合否を分けた問題その3

〔問2〕 右の図2は、図1において、

$a = \frac{1}{2}$ の場合を表している。

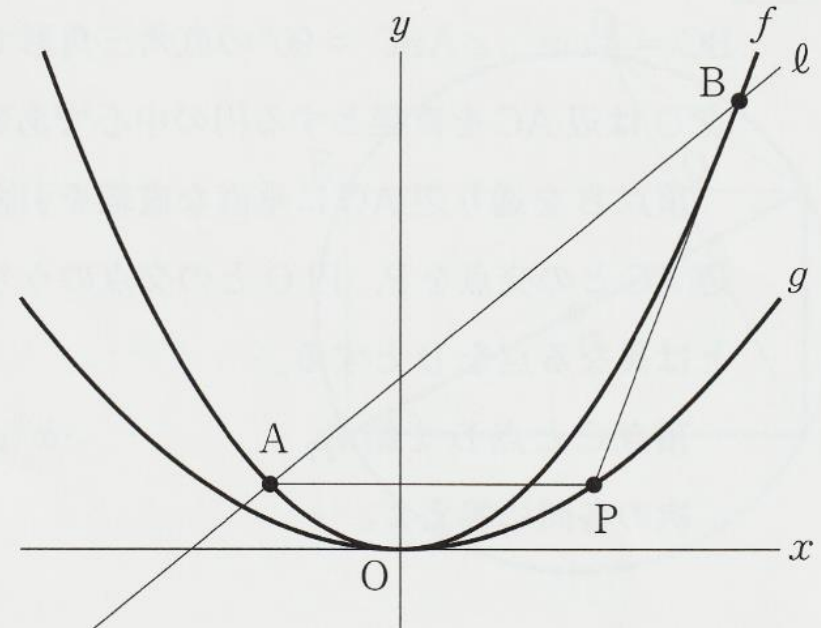
次の(1), (2)に答えよ。

- (1) 図2において、点Bと点Pの
 x 座標が等しく、直線 ℓ の傾きが1の
場合を考える。

線分APの長さは何cmか。

ただし、答えだけでなく、答えを
求める過程が分かるように、
 x 座標を $-t$ ($t > 0$) として、
計算などの続きと答えを書
完成させよ。

図2



勝手な解き方を封じ
る記述問題

【解答】 点Aの x 座標を $-t$ ($t > 0$) とする。

以下の問題番号に□をつけましょう

- 2 問2(2) ← 等積変形(頻出)
- 3 問2、問3 ← 3平方、相似
- 4 問1 ← 3平方

正解率 15%～45% の問題
合計 84点

まとめ

目標ライン

高度な思考力と
計算力が問われる問題

← 正答率10%未満
の問題が15点分

□ 計算力
を問う問題

合格ライン

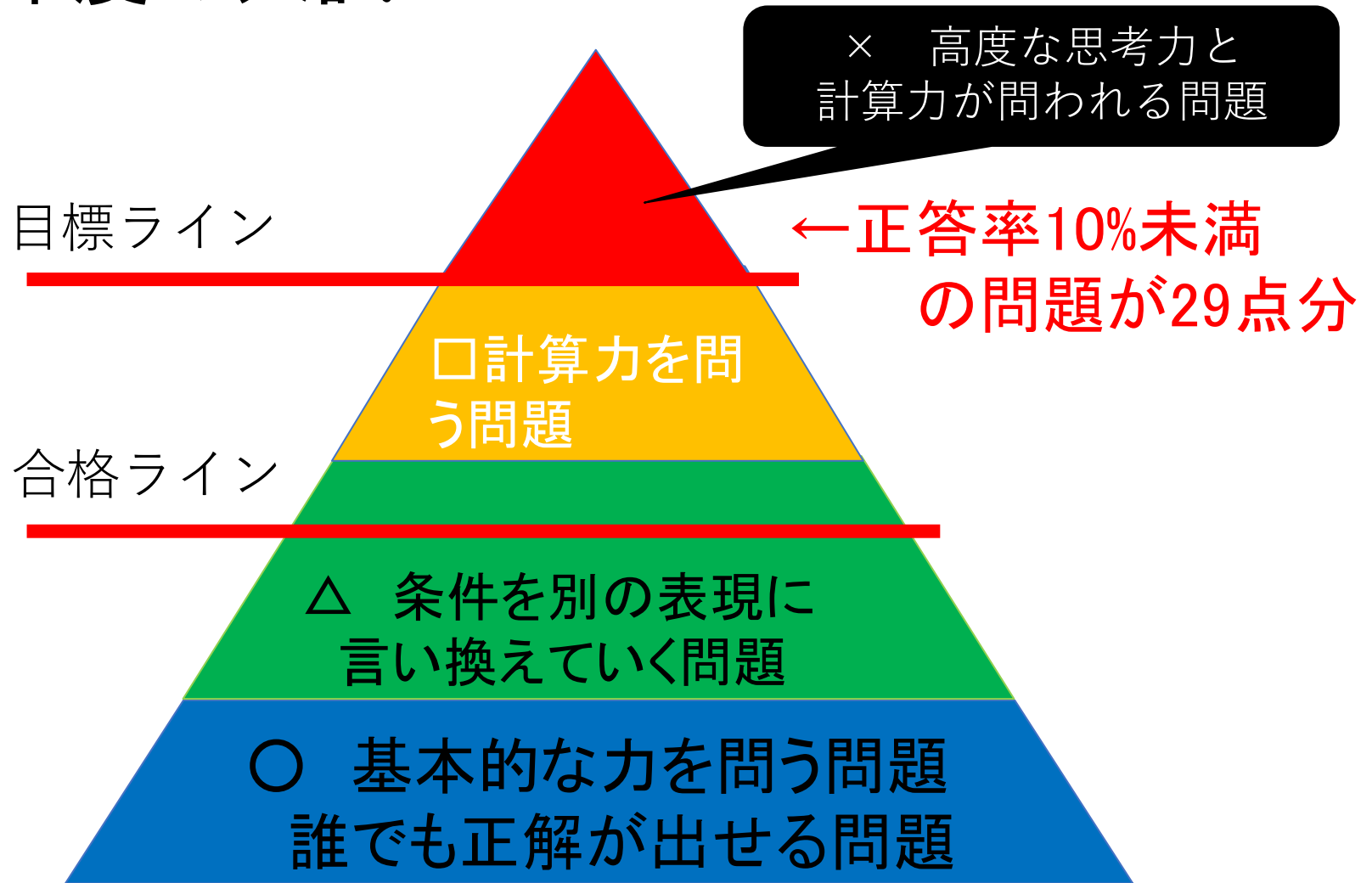
△ 直感、実験、論理的
思考力が問われる問題

○ 基本的な力を問う問題
誰でも正解が出せる問題

2023年度入試問題の特徴

正答率のバラつきが少なく、高得点が目指せる問題
といえる

2022年度の入試

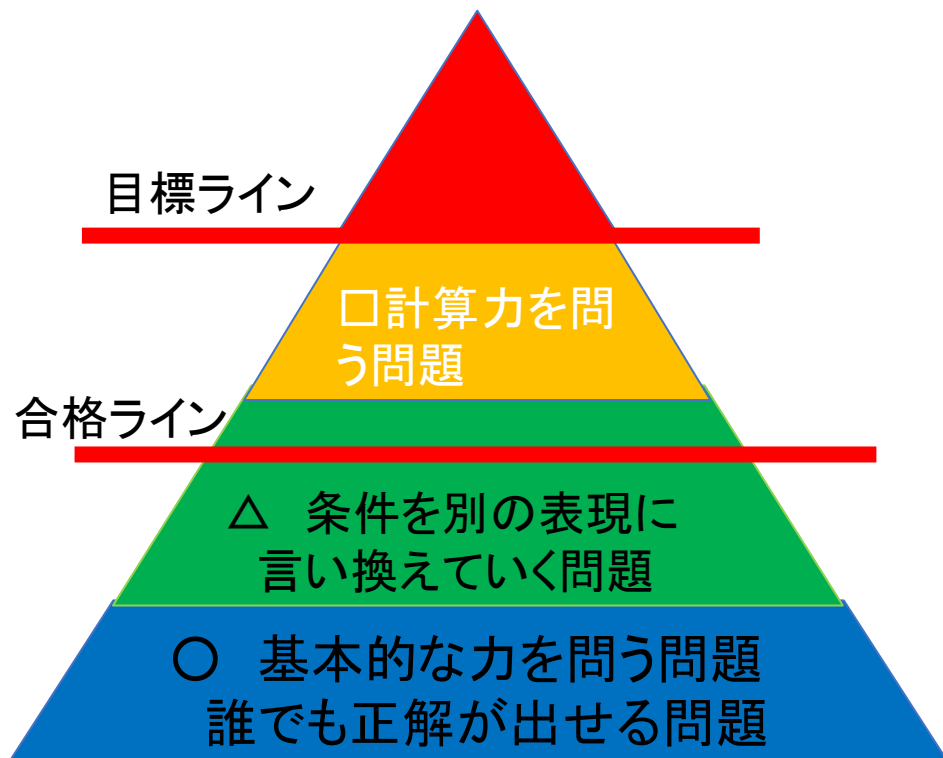


2022年度入試の特徴

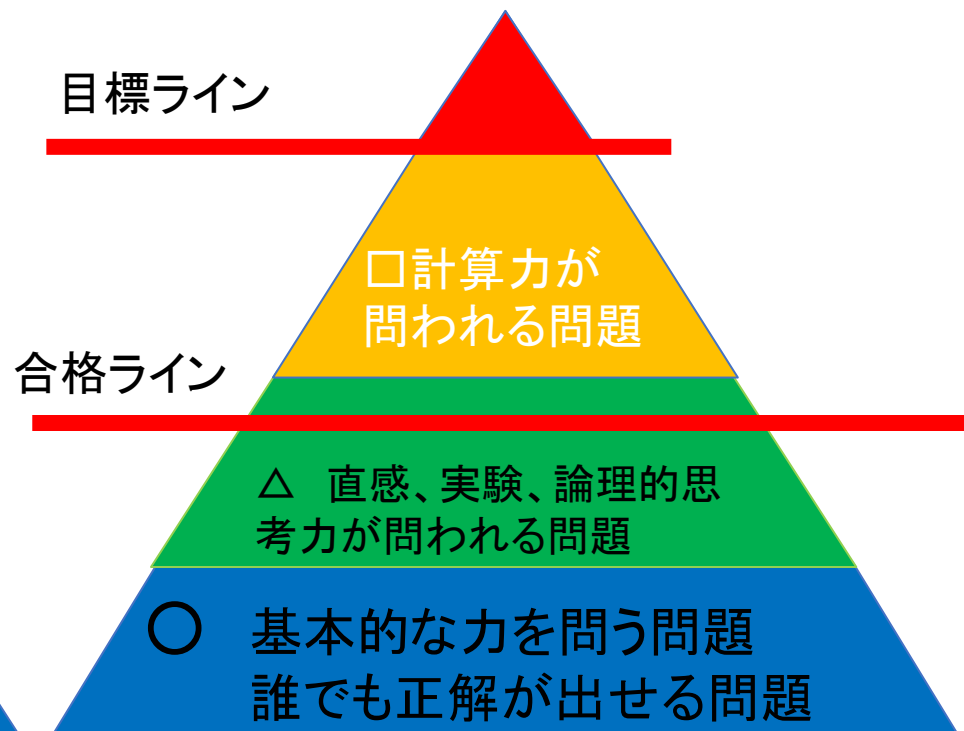
正答率のバラつきが大きく、難問の割合が高かった
といえる

2022年度 と 2023年度の比較

2022年度入試



2023年度入試



問題の難易度が変わっても
合格ラインは変わらない